

国道 33 号三坂道路

愛媛県松山市と久万高原町を結ぶ国道 33 号の三坂峠付近では、明治以降大きな道路工事が三度行われてきました。

一度目は、明治 25 年に開通した三坂新道です。藩政期の土佐街道は、松山市荏原から久谷を経て三坂峠（標高 720m）に通じていましたが、桜から峠まで急峻な坂道が 2km も続き難所となっていたため、上浮穴郡長檜垣伸らが尽力して土佐街道の西に砥部から三坂峠に至る三坂新道の建設が明治 19 年に始まり、明治 25 年に完成しました。三坂峠近くに檜垣翁碑が建立されています。三坂新道の完成により、麓から峠に至る道は土佐街道の急坂から約 10km の緩やかな登り坂に変わり、明治・大正時代は主に馬車道として利用されました。この道は大正 9 年に県道松山高知線として認定され、昭和 20 年に 23 号国道に指定され、昭和 27 年に一級国道 33 号に、昭和 40 年に一般国道 33 号となりました。

二度目は、昭和 41 年度に完成した三坂峠地区の改良です。自動車の利用が多くなるにつれて、旧道は急勾配のうえ屈曲が多いことなどから早期の改良が望まれていました。三坂峠地区の改良工事は、2 工区に分けて幅員 7.5m で実施され、砥部坂工区（砥部町岩谷口～松山市久谷町三坂間 13.8km）は昭和 37 年度に着手、昭和 41 年度に完成し、三坂峠工区（松山市久谷町三坂～久万町東明神間 2.2km）は昭和 39 年度に着手、昭和 41 年度に完成しました。

三度目は、平成 24 年に開通した三坂道路です。三坂峠を含む区間は、特に線形不良箇所が多く、異常気象における事前通行規制や冬期の積雪・凍結等による通行障害が多発していました。このため、国道 33 号三坂道路（久万高原町東明神～松山市久谷町大久保間 7.6km）が地域高規格道路「高知松山自動車道」の一部の自動車専用道路として平成 8 年度に事業化され、平成 11 年度に工事着手、平成 24 年 3 月に開通しました。三坂道路の開通に伴い、三坂峠を通る旧路線は平成 27 年に国道 440 号となりました。

三坂道路の開通は、安全性や走行性、信頼性の向上などにより地域間交流を拡大させるとともに、異常気象時でも安全で安心して通行可能な幹線道路が確保され、日常生活や救急搬送などで地域の人々に安心感を与えています。また、三坂道路の開通に伴い走行性が向上したため、木製品の輸送に使用する車両が大型化して、輸送効率の向上や輸送コストの減少などを通じて、地域の主産業であり林業の振興に貢献しています。さらに、三坂道路開通後の平成 26 年 4 月に久万高原町に道の駅「天空の郷さんさん」が開設され、観光客の増加などにより地域経済の活性化につながっています。

<参考文献：愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅱ（中予）」1984 年、建設省四国地方建設局松山工事事務所編「松山工事四十年史」1985 年、四国地方整備局事業評価監視委員会資料など>

